

陸軍大臣官房編纂

陸軍成規類聚

明治版 全三巻

陸軍成規類聚	
總目録	
第一類 官制 官規	第九類 賞典 恩給
第二類 召募 召補	第十類 刑罰 監獄
第三類 會計 經理	第十一類 教育 演習 檢閱
第四類 文書 報告	第十二類 警保 徴發
第五類 儀式 禮式	第十三類 兵器
第六類 制服 徽章	第十四類 運輸 通信
第七類 補任	第十五類 馬政
第八類 兵籍 名簿	第十六類 衛生 身體検査
	第十七類 雜

◆明治版の特色

- ▼陸軍では最初の加除式による「明治四〇年版」を基盤とする第六版（明治四四年・全一巻）を底本（靖国偕行文庫所蔵）とした。
- ▼本書（第六版）は第三〇回追録まで加除済の台本で、幸いにもその後の追録加除が全くなされていない。従って、収録法令等すべてが発行時のものである。
- ▼各類には附録として「質疑回答録」が収録されており、利用者の研究の便に役立つ。
- ▼原本は全一冊（総二二六〇頁）であるが、本書復刻版では、三分冊とした。
- ▼「解説」「附録資料」は第三巻の巻末に収録した。
- ▼刊行にあたっては、偕行社、靖国偕行文庫の協力を得た。

- （第二款 戦時給與） 陸軍戦時給與規則／国民軍ノ給與ニ関スル件／召集中ノ文官俸給支給ニ関スル件
- （第三款 会計） 会計法／会計規則／陸軍作業会計法／陸海軍ニ属スル臨時事件費特別会計法
- （第四款 予算） 歳入歳出予算概定順序／陸軍省所管予算事務順序
- （第五款 出納） 陸軍省所管歳入収納取扱規程／官吏遺族扶助法納金取入規則／韓国軍用鉄道運賃經理規程／陸軍省所管經費整理規程／陸海軍召集諸費繰替支弁ニ関スル件／憲兵上等兵ニ臨時現金前渡官任命の件／定額戻入取扱規程
- （第六款 科目及支給区分） 省略
- （第七款 工事及物件売買貸借） 省略
- （第八款 部隊經理） 陸軍給與ニ関スル委任經理ノ件／軍隊經理規程 委任經理ニ係ル作業經理要領
- （第九款 物品会計） 物品会計規則／陸軍物品会計規程／戦用品取扱規則
- （第十款 土地營造） 官有財産管理規則／官有地取扱規則／陸軍官繕事務規程／陸軍演習場規則
- （第十一款 検査証明） 会計検査院法／陸海軍出師準備ニ属スル物品検査ノ件
- （第十二款 金庫） 省略
- （第十三款 雜件） 省略
- （第十四款 馬政局經理） 種付所會計事務取扱規程／不用馬匹売却ニ関スル件／廢馬売却規程／馬政局旅費規程
- 第四類 文書 報告
 - 軍令ニ関スル件／公式令／陸軍公文書規則／陸軍報告例／戦時陸軍報告例／戦時死者及生死不明者報告手續／軍隊教科書檢閱規程／出版法／陸軍機密圖書取扱規則／陸軍国防用防衛營造物圖書取扱規程／台湾国防用防衛營造物区域ニ関スル地図取締規程／秘密圖書改竄ノ結果処分方
- 第五類 儀式 礼式
 - 陸軍会葬式及表喪式／陸軍埋葬規則／陸軍礼式／陸軍礼式附録／戦場掃除及戦死者埋葬規則
- 第六類 制服 徽章
 - 陸軍軍服制服 陸軍將校馬具制／陸軍服装規則／文官大礼服制／日本赤十字社救護員制服／陸軍軍属従軍制服／陸軍備人制服

「明治版」編纂にあたって

松本一郎

陸軍関係の法規集「陸軍成規類聚」は明治二三年に創刊されたが、四〇年度版からは加除式図書となった。

『陸軍成規類聚』第六版は、明治四〇年版を台本として、それに明治四三年一〇月五日までに発行された補修訂正追録三〇回分の加除訂正を行った上、本版から新たに加えられた質疑回答を各類の末尾に据えて出版された。すなわち、本版には、明治四三年一〇月五日現在の法規類及び質疑回答が収録されている。

加除式法規集は最新の法令を知ることができるから、実務上はきわめて便利である。しかし、追録の都度その発行日を記録しておかないと、収録法規がいつ現在のものであるかを確認できないという憾みがある。

本書が底本として用いた靖国偕行文庫所蔵の第六版（明治四四年二月発行）については、奇跡的に加除が行われなかったため、明治四三年一〇月五日現在の法規が残った。時あたかも、日韓併合の直後であった。

本書発行の翌年、栄光ある明治時代は静かにその幕を閉じた。

第六版は、明治軍史の最後を飾るものであり、『陸軍成規類聚 明治版』と名付けるにふさわしい存在である。本書を繙いていると、かつかつと響く馬の足音が聞こえてくるかのようである。

◆収録内容抜粋

第一巻

第一類 官制 官規

陸軍省官制／築城部條例／軍馬補充部條例／陸軍兵器廠條例／砲兵工廠條例／陸軍火藥研究所條例／陸軍運輸部條例／朝鮮駐劄憲兵條例／憲兵服務規程／憲兵練習所條例 臨時軍用氣球研究会官制／療兵院法／參謀本部條例／陸軍參謀條例／陸地測量部條例／台湾總督府官制／台湾總督府陸軍部條例／台湾守備隊司令部條例／韓国ノ国号ヲ朝鮮ト改稱ノ件／韓国駐劄軍司令部條例 関東都府府官制／樺太守備隊司令部條例／樺太廳官制／朝鮮總督府官制／馬政局官制／陸軍戸山学校條例／陸軍軍樂 師団司令部條例／要塞司令部條例／對馬警備隊司令部條例／陸軍懲治隊條例／聯隊司令部條例／沖繩警備隊司令部條例／陸軍武官官等表／韓国軍人ニ関スル件／陸軍將校分限令／官吏服務規程／陸軍武官考科表規則／陸軍現役軍人婚姻條例 軍隊内務書／陸軍管区表／憲兵隊配置及憲兵分隊管区／韓国駐劄憲兵隊配置及憲兵分隊管区／台湾憲兵隊管区並配置／関東憲兵隊配置及憲兵分隊管区／韓國憲兵隊ノ管区及配置 戦時大本營條例／臨時陸軍建築部條例／俘虜収容所條例

第二類 兵役 補充 召募 召集

徴兵令／陸海軍徴兵身長定限表／徴兵事務條例施行細則／歩兵隊兵員徵集区指定表／徴兵処分受クヘキ所在不明調査規程／陸軍一年志願兵條例／陸軍六週間現役兵條例 陸軍服役條例／現役下士兵卒中逃亡者取扱方／陸軍補充條例 陸軍召募條例施行細則／国民軍編入志願者願出規程／国民兵役ニ在ル者ノ服役及召集ニ関スル件／台湾寄留者演習召集規程／台湾在郷陸軍軍人戦時召集規程／台湾ニ居住スル陸軍軍人ノ召集及就職ニ関スル件

第二巻

第三類 會計 經理

（第一款 平時給與） 陸軍給與令／台湾島及澎湖島駐劄陸軍部隊給與規則 滿洲韓國樺太駐劄陸軍部隊給與令 清国駐劄陸軍部隊給與令／陸軍武官増俸給與規程 文官俸給支給細則／雇員備人給料支給規則／陸軍旅費規則／軍人軍属旅行行程規則

法／要塞砲兵操典草案／工兵操典／爆破教範改正草案／輻重兵操典／陸軍特命檢閱條例／軍隊料理法

第十二類 警保 徴發

治安警察法／軍機保護法／軍機保護法ヲ台湾ニ施行スルノ件／要塞地帯法施行規則／台湾国防用防禦營造物区域取締規則／関東州防禦營造物地帯令／衛戍條例／衛戍勤務令／近衛守衛隊規則／徴發令／徴發事務条例／徴發物件調査方梗概／戒厳令／台湾ニ戒厳令施行ノ件／旅順港ニ関スル件

第十三類 兵器

銃砲火藥類取締法 銃砲火藥類取締法施行規則／火藥類船舶運送及貯藏規程 火砲履歷規則／兵器取扱規則 兵器細目名称表／火藥火具取扱規則／要塞備附兵器保存準則／赴任用刀劍ニ関スル規程

第十四類 運輸 通信

鐵道軍事供用令／鐵道軍事輸送規程／軍事郵便物ニ関スル件／軍用電信法／軍用通信所発着軍事電報取扱規程 台湾及南滿鐵道ニ於ケル軍事輸送ニ関スル件／野戰郵便夫規則／陸軍汽船管理規程

第十五類 馬政

馬匹去勢法／馬匹ノ調査及検査ニ関スル件／陸軍將校乗馬令／軍馬管理規則 陸軍軍馬病類別／競馬規程／種牡馬検査法／種馬所種付規則

第十六類 衛生 身体検査

伝染病予防法 陸軍伝染病予防規則／陸軍伝染病予防ニ関スル清潔方法及消毒方法／肺結核予防ニ関スル件 陸軍入院患者転地療養規則 衛生材料取扱規則 陸軍薬局方第二版／赤十字條約ノ解釈 日本赤十字社條例 日本赤十字社戦時救護規則 徴兵検査規則 癩療養所収容患者ノ徴兵検査ニ関スル件 陸軍身体検査手續

第十七類 雜

戦利品規則 俘虜取扱規則 俘虜自由散步及民家居住規則 俘虜勞役規則 軍事上秘密ヲ要スル發明ノ特許ニ関スル件

◆推薦します―



山本卓眞
(偕行社会長)

今後の陸軍の制度研究に大きく裨益する出版

この度、松本先生及び関係者のご努力により、『陸軍成規類聚』資料集成が出版されることは、帝国陸軍に籍を置いた者として非常に喜ばしいことであると思います。

「帝国陸軍」は終戦時における兵力五四七万人といわれ、直接間接に軍と関係した軍需産業その他の人員を含めると、その規模の大きさは正に想像以上のものがあります。軍隊と言うと、とかく作戦・戦闘に関心が集まるのが常ですが、この日本史上空前の大組織を造成、維持、管理する機能は軍制であり、その基本となった法令規則がこの「陸軍成規類聚」に収録される規則体系であります。

今回、昭和一九年版及び別冊のみならず、その沿革を示す明治期の資料が復刻され、更に陸軍における軍制の第一人者である山崎正男氏の「陸軍軍制史梗概」及び『偕行』誌に掲載された一連の記事が復刻・出版されることは、今後の陸軍の制度研究に大きく裨益するものと思します。

松本先生ほか関係者のご努力に感謝し推薦の言葉とさせていただきます。



宮崎繁樹
(明治大学元総長・名誉教授)

戦前の日本国家の骨組みを解明する超貴重文獻

この度、森松俊夫先生の監修の下で、松本一郎教授の解説付編集によって『陸軍成規類聚』資料集成「全四集」が出版されることに、大いに喜ばしい。明治元年に創設され、昭和二〇年の敗戦によって解散を余儀なくされた「日本陸軍」は明治、大正、昭和の三代七七年間にわたり、日本の軍備のみならず、経済、産業、国民生活の全般にわたって、大きな影響を与えた。その「日本陸軍」の実態を法制面で支えた重要な諸規定を集成したのが、この「陸軍成規類聚」である。日本の軍制を学ぶ上で必須の資料であるだけでなく、戦前の日本国家の骨組みを解き明かす上でも、超貴重な文献であり、従来未見の貴重な文献も収録されている。この面での権威者である森松俊夫先生の監修と、最適任の松本一郎教授の編集による本資料集成は、信頼に値し、その的確な解説と共に、読者諸賢の期待に沿うことを信じて疑わない。



大東信祐
(元防衛研究所戦史部長)

「帝国陸軍」の軍制研究にとって貴重な資料

大東亜戦争の敗戦により帝国陸軍が解体され、その組織が消滅してから六四年の歳月が経過した。

この間において、防衛庁が編纂した公刊戦史である戦史叢書・全一〇二巻が刊行され、夥しい量の「戦記もの」の出版があるが、これらはいずれも作戦・戦闘の正面からの観察が主体である。また、満州事変から支那事変、さらに大東亜戦争に至る間の政治、外交の問題については政治史、外交史の側面から多くの研究著作が見られる。しかしながら、明治以降の日本の歴史に大きな足跡を残した「帝国陸軍」の成長とその変化の過程についての研究は、明治期の軍制史について松下芳男氏の研究以外極めて乏しいと云わざるを得ない。その不振の原因の一つとして基本的な資料の不足が上げられる。

今回、松本先生はじめ関係者のご努力により、「陸軍成規類聚」及び関連資料が集成され出版の運びとなったことは、「帝国陸軍」の軍制研究にとって貴重な資料となるものであり、今後の研究の進展に大きな寄与をなすものと思う。



原 剛
(軍事史学会副会長)

陸軍諸法規の集大成発刊に期待する

東条英機は大尉の頃、陸軍省副官を務め、「陸軍成規類聚」を毎日丹念に読み、周囲の者から「成規類聚」と呼ばれるほど法規に精通し、このことが、軍内で彼の存在を認める切っ掛けになった。彼が熱心に読んだ成規類聚とは、陸軍大臣官房が編纂した陸軍に関する諸法令・諸規則すなわち法律・勅令・軍令・省令・訓令・達・告示・陸普・通牒」などを、関連項目ごとに類別して編冊した、陸軍の行政事務の根拠文書である。従って、陸軍の研究特に陸軍の制度・組織などを研究するには、絶対に欠かせない必須の文献である。これが、資料集成として刊行され、さらにその中に軍制史の大家山崎正男氏の「陸軍軍制史梗概」などが加えられ、陸軍軍制の理解を容易にしているのは、研究者にとって大変ありがたいことである。